

## ひまわり 3組 自立活動学習指導案

### 1 単元 「コミュニケーション・スキルを身につけよう」

- Aは、自閉症・情緒障害本学級に在籍し自閉症と知的障害を併せ有する中学3年の男子生徒である。彼が持つ特性として、コミュニケーションの困難さ、こだわり（感覚過敏）、偏食、常同行動などがある。自立活動に関する実態としては、次の通りである。

区分	項目	3年生 A
心理的な安定	(2)	新しい場所や活動には不安になりやすく、見通しが持てるようになると自分から取り組むことができる場合もある。
人間関係の形成	(2)	自己主張が強く、相手がどう思っているかを考えて行動することができない。他者と関わりが消極的で、受け身的になることが多い。
コミュニケーション	(4)	自分の気持ちを自分の言葉で伝えることが苦手である。相手の気持ちを理解することが苦手。鉄道に関する話が好きである。友達との会話では話題が狭く会話が続かない。

- 本単元は、特別支援学校学習指導要領（平成30年）の内容「2心理的な安定」、「3人間関係の形成」、「6 コミュニケーション」を指導内容とする。この単元は、生徒が場に応じて適切な言葉を使い友達や身近な人とコミュニケーションが上手にとることができるようになることをねらいとしている。自閉症のある生徒が相手の意図を受け止め自分の考えを伝えることができるためには、上記に示めした3つの区分の中から必要な項目を選定し、それらを相互に関連付けて具体的な指導内容を設定することが大切である。

自閉症の生徒の場合、言葉や表情、身振りなどを総合的に判断して相手の思いや感情を読み取り、それに応じて行動することが困難な場合がある。そこで、生活上の様々な場面を想定し、相手の言葉や表情などから、相手の立場や相手が考えていることなどが推測できるように、実物や写真などの具体物、絵カード、サイン、ロールプレイなどの視覚的情報を活用して、他者と関わる際の具体的なスキルを身につけさせたい。このことは、生徒が将来、主体的に人と関わりながら生活を豊かにしようとする態度を育てる上でも意義深いものである。

- これまで自立活動の時間に、挨拶に関するスキル、相互理解のための言葉・表現スキル等ソーシャル・スキルについて段階的に学習をしてきた。本時では、さらにスキル・アップを図り、イラスト等を見て相手への伝わり方の違いを確認しながら、自分の気持ちを相手に正しく理解してもらえるために上手な気持ちの伝え方を考えさせる。また、具体的な場面を設定して、相手の状況を見ながら適切な表現を行うことで、人間関係が上手にいくことに気づくようにする。また、単元の学習内容の確実な定着を図るために終末に振り返りシートを用いて自己評価の学習活動を設定し、この学習でできるようになったことや頑張ったことを誉めて日常生活で生かしていけるように意欲付けをする。

### 2 単元の目標

- (1) 他者に対して具体的な行動の取り方や言葉のかけ方ができるようになる。  
(コミュニケーション)
- (2) 日常生活の場面を想定し、相手の気持ちを考えることができるようになる。  
(人間関係の形成)
- (3) 日常生活から課題を見つけ自分の行動を振り返り、情緒の安定を図ることができるようになる。  
(心理的な安定)

3 単元計画（全4時間）

【人】人間関係の形成 【コ】コミュニケーション  
【心】心理的な安定

次	時	学習活動・内容	指導のねらい・内容・方法	評価規準・方法
一	1 ①	1 「いろいろな気持ち」について学習をする。 (1) 感情には、怒り、悲しみ、喜び、などがあり、それらを表現する言葉を想起する。 (2) 自分は、日常生活でどんな時にどんな感情を抱くかに注目し、それらを言語化する。 (3) 友達や周囲の人がどんな気持ちかを表情、行動などから理解する。	感情語を4つ以上あげ、該当する日常生活の場面を説明できる。  ・気持ちカードを提示して「相手の気持ちを知る」を設定する。	いくつかの場面を見て適した感情語を産出できる。 (人：様相観察)
二	2 ①	2 自分の気持ちを相手に伝えることの大切さを学習する。 (1) 自分の気持ちを相手に伝える大切さとその伝え方のポイントを学ぶ。 (2) 自分の意思を表す基本形は「はい。いいえ。わからない。」であることを学ぶ。 (3) 自分から対人関係を開始するスキルを学ぶ。	自分の気持ちを相手に伝えることの大切さを知る。  ・自分の気持ちを理解して欲しい時は自分から気持ちを伝える必要があることをプリント等を使い考える場面を設定する。 ・元気が出る言葉を考えて「仲間に声をかけるポイント」を身につけるためにロールプレイの場面を設定する。	意思伝達のことを自分で考えてプリントに記入できる。 (コ：学習シート)
三	3 ①	3 ストレスの対処法を知る。 (1) 感情が生起する場面に適した感情語を選択する。 (2) 様々な問題に出会ったら、まず、落ち着く大切さを知る。 (3) 自分の気持ちを落ち着かせるスキルを学ぶ。	自分の気持ちを落ち着かせる方法を身につける。  ・場面に適した感情を言葉で伝えるためにサイコロを使ったゲームを設定する。 ・ストレス対処法には多くの方法があることを知り自分に合った方法を見つける場面を設定する。	自分の気持ちを落ち着かせる方法を考えることができる。 (心：様相観察)
本時	4 ①	4 ワークシートに取り組む。 (1) イラストを見て、どこが違うかを考える。 (2) 各場面のイラストを見て上手な話しかけ方を考える。 (3) 左側の友達は、なぜそのような気持ちになっているのかを考える。 (4) 気持ちのよい会話ができるようにどんなことばが必要なのかを考える。 (5) 今日の学習を振り返る。	気持ちの良い受け答えの方法を知る。  ・今まで学習したスキルを具体的な場面に応じて使えるように、ワークシートに記入し振り返る場面を設定する。	プリントを見ながら学習に取り組むことができる。 (コ：学習シート)

- 5 本時の主眼  
相手の状況に応じた気持ちの良い受け答えができる。

## 6 振り返り活動を仕組む授業づくりの工夫点

学習内容の確認のために、授業の終わりに振り返りシートを使い「小さな振り返り活動」を行う。また単元を貫く課題に対しては、単元の途中で評価・見直しを行い終末で自己の学習状況の変容を確認するために「大きな振り返り活動」を行う。

- 7 準備 場面のイラスト、学習ワークシート

## 8 展開

	学習活動・学習内容	具体的な手立て・支援	評価の観点 (観点：方法)
つかむ	1 前時の学習内容を想起し本時の活動の見通しを立て、本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <b>めあて</b>            気持ちの良い受け答えの方法を知ろう。         </div>	イラスト使って視覚的情報を提示してゆっくり比較することで、どんな違いかを考えさせる。  「私は～したい。」と、はっきり伝えないと相手もどうしてよいか分からないことにふれる。	・二つの大きな流れのイラストの違いをとらえることができたか。(様相)
さぐる・深める	2 ㊤、㊦それぞれの場面を見て、どこが違うかを考える。 ㊤、㊦では、話しかけられずに仲間に入れてもらえない。 ㊦、自分の気持ちを伝え仲間に入れてもらった。 3 各場面を見て上手な話しかけ方を考える。 ①本を貸して欲しい時 ・読み終わったらその本を貸して。 ②手伝って欲しい時 ・悪いけど、手伝ってくれないかな。 4 ㊠～㊣の場面を見て、左側の人は、なぜ、がっかりしているのかを考える。 ・話を聞いていないみたい。 ・話しているのに反応がない。 5 各場面を見て何て言って欲しいか考え線で結ぶ。 ㊤ねえねえ聞いて。 ㊠とびばこ、とべたよ! ㊦あしたは、大雨らしいよ。 6 気持ちのよい会話になるように㊠～㊣の吹き出しの中のことばを考えて書く。 ①そうだね、楽しみだね。 ②そうなの、ぼくも得意じゃないけど、がんばるつもりだよ。 ③うん、そうだね。	相づちを入れると相手が安心して話ができることを伝える。  【合理的配慮】 学習に対する意欲が持続しない時は休息をとりながら学習に取り組むようにする。	
振り返る	7 今日の学習を振り返り振り返りまとめをする。 ①上手な話し方が分かったか。 ②気持ち良い会話をする答え方が分かったか。 ③あいづちの言葉をいいながら会話をする。		・自分ならどんな風に答えて欲しいかを書けたか。(学習プリント)